

第4学年東組 国語科学習指導案

学習指導者 尼子 智悠

1 単元名 「相手を意識して話し方を工夫しよう ～報告します、みんなの生活～」

2 単元について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

1年生に報告したい情報を伝えるために、言葉による見方・考え方を働かせ、伝えたい内容を、どのような話し方で伝えるのがよいか考え、さらに友達の見聞も聞いて吟味する。そして、話し、さらに吟味する活動を繰り返し行う中で、伝えたい内容をよりよい話し方で相手に伝えている。

知識・技能

相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。

学びに向かう力・人間性等

言葉を通じて、自分の思いを話すことや相手の思いを聞くことのよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

思考力・判断力・表現力等

話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫する。

本単元では、1年生の2クラスに対して興味をもっていることなどについてアンケートをとり、クラスの結果の異同に焦点を当てながら、グループで1年生に報告する言語活動を設定し、話し方に重点をおいて指導する。どのような話し方がよいか考える際には、自分が伝えたいことを意識し、それを表す言葉の意味、働き、使い方に着目し、どの言葉を強調したり抑揚をつけたりするのがよいか、どの言葉の後で間を取ったりすればよいかなど、どのように話したら自分の伝えたいことが伝わりやすいかを考え、さらに友達と吟味していく。例えば、「好きな教科についてのアンケートの結果をみてください。西組の1位は国語でしたが、東組の1位は西組と違って、算数でした…」と発表したのを聞いて、「『見てください』は指示する言葉だから、その後に間を取っていたのは、1年生がゆっくり資料を見ることができていいね。『国語』や、『算数』は結果を表す大事な言葉だから、もう少し強く言えば、結果が正しく伝わってくるんじゃないかな」などと友達の見聞を聞いて、どのように伝えようか吟味するのである。そして、「確かに、結果を表す言葉は大事だから、少し強く言おう」と考えたことを生かして、また話し、さらに伝え方を工夫したり、発表原稿もより伝わる表現にしたりしていくのである。このように、相手に伝えたいことを伝えるには、どのように話をするか、繰り返し吟味し、より相手に伝えたい内容が伝わるように工夫して話そうとする子供の姿を目指す。

(2) 子供の実態

メタ認知に関する実態調査では、34名中10名が、課題解決中に、自分の活動を振り返って見直すことが難しいと分かった。教科の特性に関する実態調査では、調べたことなどを報告するような学習の際には、事前に、自分で練習するよさを感じている子供は多い。しかし、「自分で判断できるから」「友達の見聞で自分が言いたいことが変わってしまうから」などの理由から、友達に聞いてもらうことのよさを感じられていない子供が6名いる。また、多動性・衝動性などの特性から、話を聞くことに課題があり、聞いたことから考えるよりも、見たことから考えることが得意な傾向にある子供が数名いる。

(3) メタ認知を促す働きかけ

① 課題設定以前

本単元では、単元の目標を1年生に分かりやすくアンケート結果を報告できる「報告マスターになろう」と設定する。そして、そのためにどのような過程で学習していけばよいか、学習計画を単元の始めに子供たちと立てる。このようにすることで、子供たちに学習の見通しをもたせ、各時間の冒頭で、報告マスターになるために、これまでどの程度学習が進んできたのか、自分たちができるようになったこ

とは何か、また、目標を達成するために本時すべきことは何かを明確にして、課題設定の妥当性を感じられるようにする。【報告マスターへの道】(2~10時間目)

② 課題解決中

発表の練習をする際には、それぞれのグループの中で自分が担当する部分を発表し、伝え方が相手に分かりやすいものであったかどうかを、お互いにアドバイスし合う。しかし、発表を聞いて気付いたことをアドバイスしようと思っても、音声で発表したことは消えてしまうので、発表者がどのように話していたのかや、今どの部分のことについて話し合っているのかが分かりにくい。そこで、発表の練習を動画で撮影するとともに、自分が工夫しようとすることを書き込んだ発表原稿を拡大したものを班に一つ置いておくというような視覚的支援をする。そして、工夫したらよいと思うことを付箋に書きその理由を話し合いながら、発表原稿の該当部分に貼っていく。そうすることで、友達の考えと自分の考えやその理由を比較し、自分の発表の工夫を振り返って再考したり、友達の発表をより工夫するためにはどうすればよいかと考えたりしていくだろう。【プレイバック&ブラッシュアップタイム】(7・8時間目)

③ 課題解決後

課題解決後には、自分が成長したことを実感させるために、「自分ができるようになったこと・新しく分かったこと」を観点として振り返らせ、その理由を問うことで、本時の学習を通じた自分の成長や学び方のよさを感じられるようにする。また、自分の成長の度合いを折れ線グラフで表し成長を視覚的に捉えられるようにする。【のびのびシート】(2~10時間目)

3 単元計画 (総時数 10時間)

本実践では、報告する対象を、より分かりやすく伝えなければならない1年生とすることで、より分かりやすく伝えたいという意欲をもちやすくする。さらに、報告する相手が異学年となるため、内容を考えたり発表の練習をしたりする際に、事前に報告内容が相手に伝わる心配がない。グループの中でアドバイスする時間だけでなく、その後、グループ同士でアドバイスする時間を設定することで、話し方について繰り返し吟味し、自信をもって発表に向かえるように単元を構成した。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
第一次	<p>① 報告マスターになるための計画を立てよう</p> <p>1学期の単元「新聞を作って自分たちのことを伝えよう」で、自分たちの生活についてアンケートをとってクラスの友達に伝えたことを想起し、1年生が興味をもっていることについて、クラスごとの結果の違いを調査し1年生に報告するという単元の目標を設定する。その中で、実際にポスターなどの資料を使って分かりやすく伝えている映像を見ながら、自分たちの目指す姿をイメージする。</p>
	<p>②~⑤ アンケートをまとめて、ポスターや発表原稿を作ろう</p> <p>1年生が知りたいと思っていることや、調べたらよいのではないかと思うことについてアンケートを作成、実施する。そして、その結果を伝えるためのポスターや、発表原稿を作成する。ポスターや発表原稿については、同じグループ、他のグループという順で繰り返し吟味し、1年生に伝わりやすいものにしていく。</p>
第二次	<p>⑥ 1年生に伝わりやすくするための話し方を工夫しよう</p> <p>1年生に伝わりやすく発表するには、どのような話し方の工夫をしたらよいか自分で考え発表原稿に書く。</p>
	<p>⑦⑧ 1年生に伝わりやすくするための工夫をアドバイスし合おう 本時(7/10)</p> <p>「グループでシュミレーションする」「他のグループとリハーサルする」というように、1時間ごとに相手を変えて発表を撮影した動画や発表原稿を見ながら友達とアドバイスし合い、話し方をより工夫していく。</p>
第三次	<p>⑨⑩ 報告をして感想をもらおう</p> <p>1年生に報告し、内容が分かりやすかったかどうか感想を伝えてもらう。また、報告の様子を動画で記録しておき、報告の仕方はどうだったかを自己評価したり、練習をし始めた頃と比べて、自分たちの発表がどのようによくなったのかを振り返ったりする。</p>

4 本時の学習指導

(1) 目標

1年生に自分が伝えたいことを分かりやすく伝えるためには、どのような話し方をすればよいか友達と話し合いながら吟味し、より伝わりやすい話し方になるように工夫することができる。

(2) 学習指導過程

	学習活動	主な子供の意識
課題設定以前	1 本時の学習課題を設定する。 【報告マスターへの道】	前の時間は、分かりやすく伝えるために、どのようなところを工夫できそうか、自分で考えて発表原稿に書き込んだよ。 今日は、実際に発表の練習をグループの友達に見てもらおう。1年生に分かってもらえる話し方になっているかな。
1年生に伝わりやすくするための工夫をアドバイスし合おう		
課題解決中	2 どのようなところをアドバイスしたらよいか、話し合う。 【プレイバック&ブラッシュアップタイム】	先生の発表を見たけれど、もっと工夫できそうだよ。 「違って」の後は人数が分かりに「資料を見間を取った方が違くかったから、り見ているかてくください」いが伝わっていいももっと、強くゆら、もっと相の後に間を取らんと、資料を見ても強く言うと、違う数がはっきり伝わっているか確らいやすい分かるよ。わっていいんじゃないかな。いよ。よ。 自分で工夫を考えた時のように、間の取り方、強く読む言葉、視線という点でアドバイスしてあげたら、発表がよくなりそうだね。
課題解決後	4 本時の学びを振り返る。 【のびのびシート】	グループの友達と見合っ、アドバイスをもらったり、アドバイスしたりして自分やグループの友達の発表をもっとよくしよう。 発表したけれど、どうだったかな。1年生になったつもりで、撮った映像を見返しながら分かりやすいかどうか考えよう。 「東組は」を「西組と同じで」人数が伝わっ人数を言う前に強く言っているの後は間を取っているかどうか、1年生のた方が、大事なしてもらいやすくてもらいやすくなるよ。人数がはっきりするといいいよ。伝わるよ。 強さや間の取り方を工夫できそうだね。大事な人数がはっきり1年生に伝わるように発表しよう。 アドバイスしてくれたことを生かして、もう一度練習してみよう。
		大事なことの前後で間を取りながら発表することができたから、初めの時より自分たちの発表が伝わりやすくなったと思うよ。 映像で振り返ったり、友達にアドバイスをもらったりしたおかげで、自分の発表が分かりやすくなり、報告マスターに近づいたよ。 次は、他の班に見てもらい、最終のリハーサルをしよう。

二日目
提案授業II指導案

(3) 授業の詳細

前時までの子供の意識 学習活動 1

前時までに、1年生に分かりやすく伝えるための発表原稿を書き、発表する時に工夫すればよいことを自分で考え、その原稿に書き込んでいる。本時は、単元の始めに設定した報告マスターになるという目標を達成するために、工夫を考えたところまで進んでいることを確認する。そして、次の段階としてその工夫を生かして発表したり、より1年生に伝わりやすい発表にするためにアドバイスし合ったりしたいという思いから学習課題を設定する。【報告マスターへの道】

学習活動 2

アドバイスする際に、どのようなところに着目すればよいかを明確にするために、教師の発表を録画した映像を発表の例として示す。その際には、教師が工夫しようと考えていたことが記された発表原稿も大きく拡大して、子供たちに示しておく。そして、教師の発表原稿や発表を見た後、自分ならどのようなことをアドバイスするかを子供たちに問う。子供たちが答える際には、子供たちと映像や発表原稿をもう一度確認する。このように、1回発表を見たり聞いたりしただけでは自分の考えをつくりにくい子供にも、例示の映像を繰り返し見たり、どのようなことを言っていたか発表原稿を見ながら確認したりしながら、自分ならどのようなところに着目してアドバイスをするかと考えやすくなると考える。ここでは、その映像や発表原稿を基にしながらアドバイスすることを考えさせ、教師がカードに書いて発表原稿の該当箇所に貼ることで、今はどの言葉や話し方に着目しているのかを明確にする。そして、焦点化したその箇所について、様々な子供の考えやその理由を語らせることで、互いの考えの理由を比較し、「人数は1年生が知りたいと思うから」や「正しく数を伝えたいから」など1年生が知りたいことを正しく伝えたいという理由の共通点に気付いたり、「資料も見てほしいから」などの相違点に気付いたりしていくだろう。【プレイバック&ブラッシュアップタイム】

学習活動 3

子供たちはそれぞれのグループに分かれて、その中で順番に発表をしていく。発表の前には、前時までに作成している、工夫を書き込んだ発表原稿を拡大した物を示し工夫するところを確認し、発表の様子をタブレットで撮影する。一人の発表が終わると、タブレットで撮影した映像と発表原稿を見ながら、よかったところや、どのようなところを工夫すればよいと感じたか、それぞれの考えとその理由を伝え合い、よりよい工夫の仕方を考えていく。【プレイバック&ブラッシュアップタイム】その際、初めの一人が発表原稿のアドバイスをしようとした箇所に付箋を貼り、その点について他の人はどう思うか、というように話し合うところを絞るようにする。また、発表者も自分が発表した映像を見ながら自分の発表を振り返り、自分の考えを述べるようにする。この話し合いの流れは図に示して説明し、班の手元にも置いておくことで、必要に応じて、その流れ図を見ながら進めることができるようにしておく。また、発表している中で、より伝わりやすくするために表現などについても変更が必要だと感じた場合は、発表原稿を変更してもよいことを伝える。

学習活動 4

本時、自分ができるようになったことや新しく分かったことを、記述させることで、自分の成長を実感することができるようにする。さらに、その理由を振り返るようにすることで、協働のよさや、自分の発表を記録して見返すことのよさなどの学び方のよさにも気付くことができるようにしたい。さらに、報告マスターにどれだけ近づいたかを折れ線グラフで表すことで、単元を通した自分の成長を視覚的に捉えられるようにする。【のびのびシート】



【のびのびシート】

(4) 評価

1年生に自分が伝えたいことを分かりやすく伝えるためには、どのような話し方で話したらよいかをグループの友達と話し合いながら吟味し、より伝わりやすい話し方になるように工夫することができる。【方法：発言・様相・記録映像・発表原稿】